

年齢に合わせた就職を支援 シニアエイジ就職フェア

7月10日、春日住民センターで、おおむね60歳以上の方を対象とした就職フェアが開催されました。仕事を探す約30人が参加し、市内企業による面接や各種相談も実施。シルバー人材センターの紹介や登録相談も行いました。

参加者は「就職面接だけでなく、年金、生活の悩みなども合わせて相談できた。今後の参考にしたい」と話しました。



就職に関する説明を聞く参加者

祝 20 回記念 バンドフェスタ開催！

7月16日、ライフピアいちじまでバンドフェスタ 20th が開催されました。本ステージは20組、ジュニアステージは12組が出演しました。

出演者の熱いステージに、観客からは大きな声援と惜しめない拍手が贈られました。出演者だけでなく、フェスタに携わるすべての関係者の思いが1つになり、20回記念フェスタにふさわしい盛り上がりを見せました。



最高の盛り上がりを見せる会場

健康とスポーツ振興をめざす 大塚製薬株式会社と連携協定



握手を交わす佐伯和洋支店長（写真左）と谷口市長

7月12日、市と大塚製薬株式会社は市民の健康を維持・増進するため、連携協定を結びました。スポーツイベントへの飲料提供や熱中症予防講座、災害時の製品提供などを受けます。

佐伯和洋神戸支店長は「女子高校野球などスポーツイベントに協力できてうれしい。熱中症予防だけでなく、運動パフォーマンスアップにも使ってもらえれば」と選手にエールを送りました。

手話への理解を深めるために 手話普及啓発チラシを配布



完成した手話の啓発チラシとポスター

7月20日、手話への理解を深めてもらおうと手話の普及啓発チラシとポスターを配布しました。

チラシには4月に策定された「手話施策推進方針」の内容と簡単なあいさつの手話が紹介されています。年度内に今回を含めて3回配布予定です。市では手話の普及啓発に加え、手話通訳者を養成しています。すべての市民が、安心して暮らすことができる丹波市をめざし、取り組みを進めます。

平成 29 年 7 月九州北部豪雨 被災地での支援業務を報告

8月4日、九州北部豪雨の被災地である福岡県朝倉市に、7月29日から1週間派遣されていた職員2人が帰任し、活動報告を行いました。

派遣職員の森本英行係長と足立和義係長の2人は、丹波市豪雨災害の経験を生かし、災害対策本部運営や災害救助法に関する業務などを支援しました。現地到着後、全7カ所の避難所を回って避難生活や周辺の被害状況を確認。現状を把握したうえで、災害対応に係る課題などを整理し、対策案などを進言しました。

森本係長は「土砂が大量で、被害の大きな地域に立ち入れない状況にあるが、早期に被害状況を把握することが生活再建に最も大切なこと。進言が少しでも役に立てばいいと思う」と話しました。

足立係長は「応急復旧どころか、被災後、全く手付かずの地域も存在する。ボランティアはこれからまだまだ必要となる」と話しました。

報告を受けた市長は「現場の緊張感が伝わってきた。経験のある2人を派遣できてよかった」とねぎらいました。

震度6強の地震を想定 職員参集訓練を実施

7月22日午前6時、震度6強の地震が起きたことを想定した訓練が行われました。全職員にメールで、各配備庁舎に集まるよう通知。655人中、約6割の386人が1時間以内に参集しました。

市長は「豪雨災害から3年が経過した。こうした訓練を行い、災害はいつどこで起きるか分からないという心の準備が大切」と日頃からの危機管理意識の大切さを職員に指示しました。



庁舎をネットでつなぎテレビ会議方式で本部会議を実施



報告を行う森本係長（写真左）と足立係長（写真右）



土石流で倒壊した家屋や流木が積み上がった被災地

全国で歌われる曲に 丹波市の歌制定委員会始動



歌について説明する足立さつき委員長

7月14日、市民の一体感を醸成するために制定する「丹波市の歌」の制定委員会が開かれました。委員長には春日地域出身のソプラノ歌手足立さつきさんが選ばれ、作曲家千住明さんに作曲を依頼することを発表しました。

足立さつき委員長は「市の歌として歌われるだけでなく、全国の人に歌ってもらえる曲にしたい」と意気込みを語りました。